

地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開
着実に深まる異文化理解 「世界の諸地域」編

「世界の諸地域」編

【導入】写真で眺める南アメリカ州

原寸大 本資料 p.5-6

▶各州の特色となる自然環境、歴史・文化、産業などに関する、地域の姿が見える写真を大きく掲載し、**地域的特色を概観**できるようにしています。

南アメリカ州の自然環境(各州の自然環境)

▶ 異文化理解を深める上で基礎・基本となる各州の地形や気候などの自然環境を、人々の生活と関連付けながら、端的に捉えています。

【例】第2部第2章第5節「南アメリカ州」(p.108～119)



▲ p.108-109

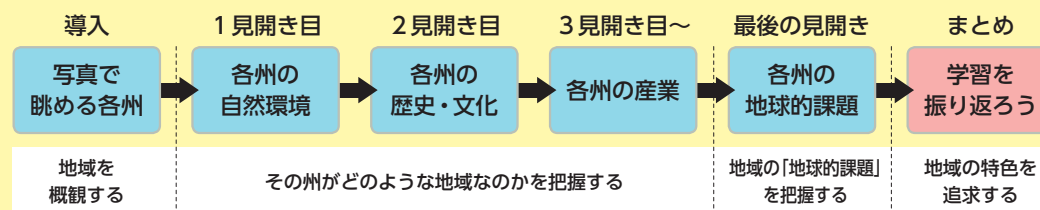
「写真で眺める」ページの写真は、地域を概観するだけでなく、本文ページの資料としても活用できます。

融合から生まれた
さまざまな文化

華やかさで世界中に知られるリオデジャネ
イロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカ
の文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはも

！ポイント

世界の諸地域の展開



異文化理解が 深まる

世界と日本の諸地域の単元では、「自然環境」のページに地形がわかる地図と、雨温図を掲載しているため、地域の自然環境の概要がつかめます。

アンデス山脈が気候に及ぼす影響と、熱帯から寒帯まである南アメリカ州の多様な気候の特色を、人々の生活と関連付けながらつかむことができます。

地図中には、見開きページ内で使用されている写真の位置が示されています。写真が撮影された場所を確認できます。



▣ p.110 1の拡大

特色

2

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解

「世界の諸地域」編

2見開き目では、各州の歴史・文化を扱うことで、地域によって、なぜ異なる暮らしづくりが存在するのかを理解することができます。3見開き目以降は、各州の産業や結び付きなど、その地域で特色となる事象を扱っています。

多様な民族・文化と人々の生活 (各州の歴史・文化)

▶日本とは大きく異なる世界各州の人々の暮らしや文化の特色を、**歴史的な経緯もふまえて**理解できます。

大規模化する農業と成長する工業 (各州の産業)

▶地域の**特色ある産業**などを扱っています。見開きごとに学習内容がまとまっているため、**地域的特色を捉えやすく、スムーズに学習**できます。



2 多様な民族・文化と人々の生活

南アメリカの国々の文化や民族には、どのような特色がみられるのか。

南アメリカの成り立ち

もともと南アメリカには、アンデス山脈のインカ帝国に代表されるように、**先住民**がつくった高度な文明が栄えていました。しかし16世紀になると、スペインやポルトガルなどのヨーロッパの人々が進出しました。彼らは先住民の文明を滅ぼして**植民地**をつくり、**ヨーロッパの文化を南アメリカにも**あてました。そのため、現在でも多くの国々でスペイン語やポルトガル語が話され、**キリスト教のカトリックが信仰**されています。

植民地時代には大きな農場や鉱山で、先住民やアフリカから連れてこられた**奴隷**が厳しい環境で働かされました。先住民と白人との間には子どもが生まれ、メスチーソとよばれる混血の住民も増えました。19世紀の終わりにはイタリアやドイツをはじめとするヨーロッパから、20世紀になると日本からも、多くの移民がやって来るようになりました。その結果、現在の南アメリカには、先住民のほか、ヨーロッパやアフリカ、アジアなどからやって来た、さまざまな人種や民族が共存して暮らしています。

融合から生まれたさまざまな文化

単やかさで世界中に知られるリオデジャネイロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカの文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。**カーニバルはもと**もと、**ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事**ですが、

p.112-113

カーニバルなどの独特な文化が南アメリカ州に存在するのはなぜか、その歴史的背景を学ぶことにより、地域への理解が深まります。

明を滅ぼして**植民地**をつくり、**ヨーロッパの文化を南アメリカにも**あてました。そのため、**現在でも多くの国々でスペイン語やポルトガル語が話され、キリスト教のカトリックが信仰**されています。

の文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。**カーニバルはもと**もと、**ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事**ですが、

2 世界の諸地域 南アメリカ州

共生 ブラジルに渡った日本人

ブラジルには約190万人の日系人が暮らしているといわれます。日本からブラジルへの移住は1908年に始まりました。移住者は当初、コーヒー農園に住み込んで働きましたが、労働環境が厳しく、逃げ出してしまいう人もいました。その後、自分の土地を所有して、野菜・果物の栽培や鶏の飼育を始めると、都市へ移り住んで飲食店などを始める人が出てきました。日本人移民は子どもの教育を大切にしたり、その子孫の日系人は大学への進学率が高く、高度な技術職で働いたり、医者や弁護士になったりするなど、さまざまな分野で活躍しています。

1990年以降は、日本で法律が改正されたことにより、ブラジルなど南アメリカの国々から日本に来て働く日系人が多くみられます。

サンパウロの日本人街(ブラジル、2016年撮影) 和食の飲食店などが集まっています。

タンゴを踊る人(アルゼンチン、ブエノスアイレス)

アマゾン川流域の先住民と畑でとれたキャッサバ(ブラジル北部)

焼畑農業

森林の伐採と火入れ

木や草の成長

10～50年で1サイクル

作物の栽培

作物の成長

作物の収穫

南アメリカ州の国々で使用されている主な言語を図で確認し、二つ挙げよう。

南アメリカ州で独自の文化や多様な民族がみられる背景を、「植民地」の図句を使って説明しよう。

p.112-113

文章だけでは理解しにくい用語は、イラストや表による図解を交えて解説することで、着実に理解ができるようになっていきます。

森林の伐採と火入れ

木や草の成長

10～50年で1サイクル

作物の栽培

作物の成長

作物の収穫

p.113「解説」中の焼畑農業の模式図

3 大規模化する農業と成長する工業

大型機械を使ったコーヒーの収穫(ブラジル、サンパウロ州、2010年6月撮影)

コーヒーの収穫作業は、近年と比べると、どんな風に変わったのかな？

手作業でのコーヒー(ブラジル、パレンス、2010年6月撮影) 収穫者の人数を比べてみよう。

大農園での農業

南アメリカ州の国々で、産業に変化がみられるようになったのはなぜだろうか。

南アメリカ州では、平野や高原を中心に大規模な農業がみられます。スペインやポルトガルの植民地時代に、各地に大農園がひらかれ、ブラジルではさとうきびやコーヒーの栽培が、アルゼンチンのパンパでは小麦の栽培や肉牛の放牧が盛んに行われてきました。また、エクアドルやコロンビアなどの熱帯の海岸地域では、多国籍企業が経営する**プランテーション**で、輸出用のバナナの栽培が大規模に行われています。

ブラジルは長い間、コーヒー豆の輸出に依存した**モノカルチャー経済**の国でしたが、近年では、コーヒー豆のほか、大豆やさとうきび、鶏肉・牛肉などの生産も増えています。特に大豆は、土壌や品種の改良が進んだ結果、かつては農業に不向きとされていた土地でも大規模に栽培できるようになりました。ブラジルとアルゼンチンの主要な輸出品となった大豆は、アメリカ合衆国などの**アグリビジネス**を行う企業に大量に買い付けられ、大豆油や飼料にするために、主に中国などへ輸出されています。さとうきびは、砂糖だけでなく、ブラジルで普及している**バイオ燃料**の原料としても使われます。

p.114-115

導入では、ブラジルにおけるコーヒーの収穫方法の**変化を写真資料で提示**することで、**地域における産業の発展について考察**することができます。

本資料 p.23

2 世界の諸地域 南アメリカ州

南アメリカの植生と農業 (Diercke Weltatlas 2008)

南アメリカの国々の輸出品 (2015年) (UN Comtrade)

豊かな資源と工業化

南アメリカは**鉱産資源**に恵まれており、ブラジルの鉄鉱石、チリの銅、ペネズエラやエクアドルの原油などは、輸出品として各国の経済を支えてきました。鉱産資源の輸送のために、鉄道、電力、通信などの施設が整備され、後に工業にも利用されるようになりました。

ブラジルやアルゼンチンは、1960年代後半からアメリカ合衆国や日本などの外国企業を受け入れることで、鉄鋼や自動車などの重化学工業を成長させました。特にブラジルでは、航空機の輸出や、大規模な海底油田の探掘も行われるようになり、急速に経済が発展しました。一方、アンデス山脈周辺の国々では工業化はあまり進んでおらず、鉱産資源や農産物の輸出に頼った経済が続いています。

産業の発展に伴う課題

ブラジルでは、産業の発展によって都市化が進み、人々の生活水準も高くなりました。その一方で、内陸部の農村と経済的な格差も広がりました。例えば農村では、農業の機械化が進み、農作業の手間が省けるようになった結果、職を失って都市へ移動せざるをえない人もいました。都市では、働く機会を求めて多くの人が集まり、急激に人口が増えたことにより、丘陵や河川敷などに**スラム**が形成されました。スラムでは、犯罪の発生やごみの増加など、劣悪な居住環境が問題となっているため、経済的な格差を無くするための取り組みが求められています。

p.114-115

南アメリカ州では、アマゾンの開拓による**農業の発展**→**豊かな資源を背景に発展した工業**→**発展に伴う課題**、と展開しているため、**順を追って産業の発展とそれに伴う課題について考える**ことができます。

特色

2

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解

「世界の諸地域」編

ブラジルにみる開発と環境保全 (各州で注目する地球的課題)

▶ 熱帯林の破壊や都市・居住問題、食料問題など、世界各地で発生している**地球的課題**について、各州の**具体例**をもとに学習できます。

節の学習を振り返ろう

▶ 左ページでは既習の**知識**を確認し、右ページでは「見方・考え方」を働かせて、各州がどのような地域だったのかを**思考・判断し、説明**します。

異文化理解が
深まる

4

ブラジルにみる
開発と環境保全

ブラジルでは、北アメリカで肉牛の病気がはやってブラジル産牛肉の需要が急増したときに、牧場の開発が進んだ。熱帯林を伐採して牧場をつくる。1〜2年の間は牧草がよく育つのだけど、しだいに牧草の育ちが悪くなるんだ。そうすると、また森を切り開いて新しい放牧地をつくるんだ。

ブラジルの熱帯林は、どのようにして開発されているのかな？

ブラジルでは、北アメリカで肉牛の病気がはやってブラジル産牛肉の需要が急増したときに、牧場の開発が進んだ。熱帯林を伐採して牧場をつくる。1〜2年の間は牧草がよく育つのだけど、しだいに牧草の育ちが悪くなるんだ。そうすると、また森を切り開いて新しい放牧地をつくるんだ。

ブラジルの熱帯林の開発 (IBGE 資料、ほか)

民の生活が脅かされたりすることも心配されます。そこで、アマゾン川流域の熱帯林を将来にわたり保存するため、さまざまな取り組みが行われています。熱帯林の一部は、国立公園や世界遺産などの保護地域に指定され、開発が規制されるようになりました。また、違法な伐採を人工衛星から監視するしくみも導入され、それには日本の技術も生かされています。これらの取り組みの結果、違法な伐採は減ってきていますが、監視の目をすり抜け違法な伐採は続いています。

環境保全をめぐる新たな課題

ブラジルでは、さとうきびを原料とする**バイオ燃料**で走る自動車**が普及**しており、**二酸化炭素の排出量を抑える取り組み**として注目されています。燃料用のさとうきびの生産は、バイオ燃料を精製する工場が集中するサンパウロ州などの南東部で急増しています。**しかし、さとうきびの生産を増やすために、草や木で覆われていた土地が開発されて農地になると、雨で土が削られてしまうなどの環境問題が起こります。**

アマゾン川流域の熱帯林の伐採 (ブラジル、パナマ、2018年撮影) 開発された道路から外側に向かって延びる伐採の跡は、魚の骨のように見えるため、フィッシュボーンとよばれます。

第5節 南アメリカ州

第5節の地図 p.108~117

南アメリカ州では、農地や鉱山の開発が進むことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

1 学んだことを確かめよう

1. A〜Fにあてはまる国名を答えよう。
2. ④〜⑥にあてはまる山脈名、河川名、高地・高原名を答えよう。
3. ①〜⑦にあてはまる語句を、下のキーワードや教科書を振り返りながら答えよう。

南アメリカの国々 (→ p.112) 言語や宗教などに残る文化
豊富な鉱産資源 (→ p.115) ブラジルの鉄鉱石、チリのペナエラやエクアドルの原油などは重要な輸出品
Bの大平原 (→ p.111, 114) 川の河口付近に広がる土地とよばれる草原では、小麦の栽培や肉牛の放牧が盛ん
広大な熱帯林 (→ p.110~111, 113, 115~117) 先住民による農業・開発が進み、伐採の跡地は牧場や農地などに変わっていく。⑤を運ぶための鉄道やアマゾン盆地を横断する道路の建設
A (→ p.112~117) リオデジャネイロのカーニバルが有名。⑥高原などではコーヒーの栽培だけでなく、⑧の生産が増加。工業では、鉄鋼や自動車、航空機などの重化学工業が発達。経済成長の一方で、都市では⑦とよばれる居住環境の悪い地域も形成

写真 p.108~109の写真を関連した以下の文章を読んで、②〜⑦にあてはまる語句を、キーワードから答えよう。
写真①の背景には、ヨーロッパの文化が基になっています。背景には、ヨーロッパの人々が、もともと住んでいた②の文明を基盤として、③とした歴史があります。世界でも流域面積の広い④が流れているブラジルは、長年、コーヒー豆の輸出に依存した⑤の国でした。近年は、写真②のように大豆を大規模に栽培しており、アメリカ合衆国などの⑥を行う企業が大量に買い付けています。

キーワード

アンデス山脈、アマゾン川、熱帯林、パナマ、先住民、綿織物、綿織物、プランテーション、モノカルチャー経済、アグリビジネス、鉱産資源、スラム、地球温暖化、森林地、森林地、森林地

2 「地理的な見方・考え方」を働かせて説明しよう

プラスの面
・コーヒー豆以外の多種の農産物を輸出できるようになった
・伐採された熱帯林は、木材として輸出され、伐採の跡地では、肉牛が飼育されたり、大豆が栽培されたりしている
・鉱産資源の輸送のために、鉄道、電力、通信などの施設が整備され、工業でも利用できるようになった
・さとうきびの生産が急増し、環境に優しいバイオ燃料が普及した

開発による地域への影響
鉱山開発、農地開発

マイナスの面
・熱帯林の一部が国立公園や世界遺産などの保護地域に指定され、開発が規制された
・熱帯林の違法伐採を防ぐため、人工衛星から監視するしくみが導入された
・等高線に沿うように畑を耕して、雨による土壌の流出を防ぐ対策が行われている
・先住民の保護地区が守られ、先住民の人々の暮らしを守る取り組みが行われている

自然環境の保全に向けた取り組み

南アメリカ州における開発の影響をブラジルを中心としてまとめた例

ステップ1 この州の特色と課題を整理しよう
南アメリカ州における、農地や鉱山の開発のマイナスの面について、p.118 キーワードや教科書を振り返りながら、図②の①の空欄を埋めよう。

ステップ2 「節の問い」への考えを説明しよう
作業1 鉱山の開発と工業化・都市化には、どのような関係があるのか、図②を参考に説明しよう。
作業2 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発が進むことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。地理的な見方・考え方を働かせて、節の問いに対するあなたの考えを、「熱帯林」と「スラム」の語句を使って説明しよう。

ステップ3 「発展」持続可能な社会に向けて考えよう
作業1 熱帯林の開発が進められている理由を、図②を参考に考えよう。
作業2 熱帯林の保全と経済の発展を両立するためには、どのような取り組みを行うとよいだろうか。「開発業者」、「先住民」、「ブラジル政府」のいずれかの立場で考えよう。
作業3 グループになり、どのような取り組みを優先的に行うかが大切か、立場を明らかにして、話し合おう。

私たちの関わり
アマゾン川流域の熱帯林の開発は、日本に住む私たちと、どのような関わりがあるのだろうか。農産物の輸入や地球温暖化という側面から考えよう。

p.116-117

p.118-119

南アメリカ州では、**環境問題への対策自体が新たな課題を生み出している**という最新の状況を記述することで、地域への理解が深まり、**多面的な考察も促進**されます。

環境保全をめぐる新たな課題

ブラジルでは、さとうきびを原料とする**バイオ燃料**で走る自動車**が普及**しており、**二酸化炭素の排出量を抑える取り組み**として注目されています。燃料

サンパウロ州などの南東部で急増しています。**しかし、さとうきびの生産を増やすために、草や木で覆われていた土地が開発されて農地になると、雨で土が削られてしまうなどの環境問題が起こります。**

「学習を振り返ろう」の最後では、地域的特色をまとめた上で、それらの課題を通して持続可能な社会に向けた構想を、**自分たちの生活と関連付けながら話し合えるように**しています。

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は本資料p.33-34に掲載

17

18

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解

【日本の諸地域】編

【導入】近畿地方(イラスト地図)

▶ 地方を概観するイラスト地図を掲載しています。小学校からの橋渡しになるよう、手書きによる親しみやすい表現にしています。

【例】第3部第3章第3節「近畿地方」(p.203～218)



p.203

原寸大 本資料 p.11

イラスト地図にすることで、大まかな地形の様子がわかりやすく捉えられます。

特徴的な産業や文化などのイラストを掲載することで、地域を概観できるようにしています。



【導入】写真で眺める近畿地方

▶ イラスト地図のあとに、地域の姿が見える写真を大きく掲載し、よりイメージをともなって地域の特色が概観できます。



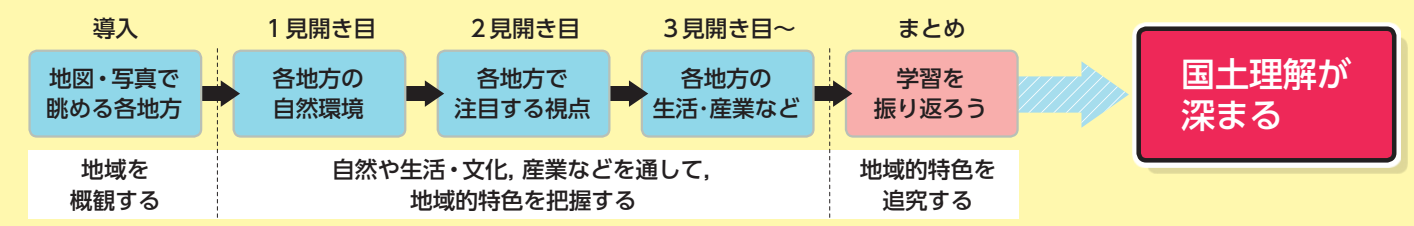
p.204-205

原寸大 本資料 p.7-8

各地方で「注目する視点」(→本資料p.28)に関わる写真を大きく掲載しています。地方の学習の始めに、「注目する視点」を印象付けられます。近畿地方では、「環境保全」を視点として取り上げているため、琵琶湖の写真を掲載しています。

！ポイント

日本の諸地域の展開



地域の特色を着実に理解できる地誌の展開
着実に深まる国土理解 「日本の諸地域」編

「日本の諸地域」編

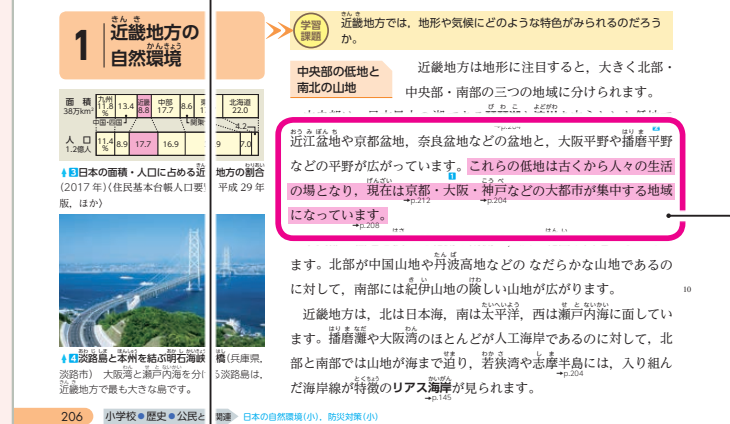
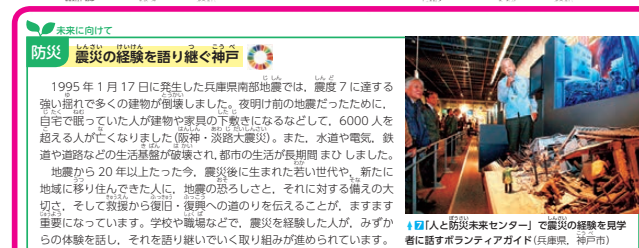
近畿地方の自然環境(各地方の自然環境)

▶ 自然環境を人々の生活と関連付けながら、わかりやすく記述しています。

1見開き目では、国土理解を確かなものにする上で基礎・基本となる地形や気候などの環境を扱っています。また、2見開き目では、各地方で注目する視点と関係の深い地理現象を扱うことで、各地方で追究する主題を明確にしています。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏(各地方で注目する視点➡環境保全)

▶京阪神で暮らす人々の大切な水がめである琵琶湖の水質保全のために、地域の人々がどのような努力を行ってきたのかを扱いました。



▲ p.206-207

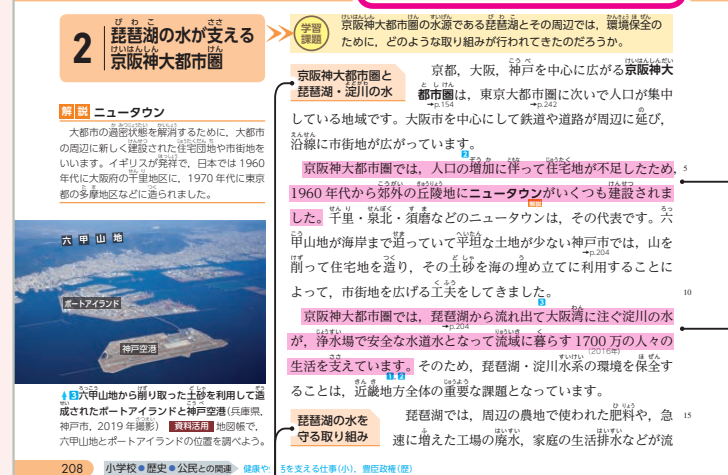
冒頭に「注目する視点」を提示しています。各地方の学習を、何に注目して「見通す」のかがわかります。

各地方の自然環境の特色に応じた災害と、防災への取り組みを扱っています。

本資料 p.44

自然環境を人々の生活と関連付けて記述にしています。

近江盆地や京都盆地、奈良盆地などの盆地と、大阪平野や播磨平野などの平野が広がっています。これらの低地は古くから人々の生活の場となり、現在は京都・大阪・神戸などの大都市が集中する地域になっています。



▲ p.208-209

「京阪神大都市圏」の概要をおさえた上で琵琶湖水系について考える展開としています。巨大な人口を支えるために大量の水が必要だからこそ、琵琶湖の水質保全の重要性が近畿地方の大きな課題の一つであることが自然に展開できます。



本文に書かれている人々の生活と琵琶湖の関係を、図版の読み取りを通じて深めることができます。

京阪神大都市圏では、人口の増加に伴って住宅地が不足したため、1960年代から郊外の丘陵地にニュータウンがいくつも建設されました。千里・泉北・須磨などのニュータウンは、その代表です。

京阪神大都市圏では、琵琶湖から流れ出て大阪湾に注ぐ淀川の水が、浄水場で安全な水道水となって流域に暮らす1700万人の人々の生活を支えています。そのため、琵琶湖・淀川水系の環境を保全す

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解

「日本の諸地域」編

環境に配慮した林業と漁業（林業、漁業＋環境保全）

- ▶近畿地方の林業と漁業を通して、後継者不足や水産資源の枯渇などの地域の課題について記述するとともに、課題への対応についても記述しています。

節の学習を振り返ろう

- ▶ **左ページ**では既習の**知識**を確認し、**右ページ**では「地理的な見方・考え方」を働かせて、各地方がどのような地域だったのかを**思考・判断**し、**表現**します。

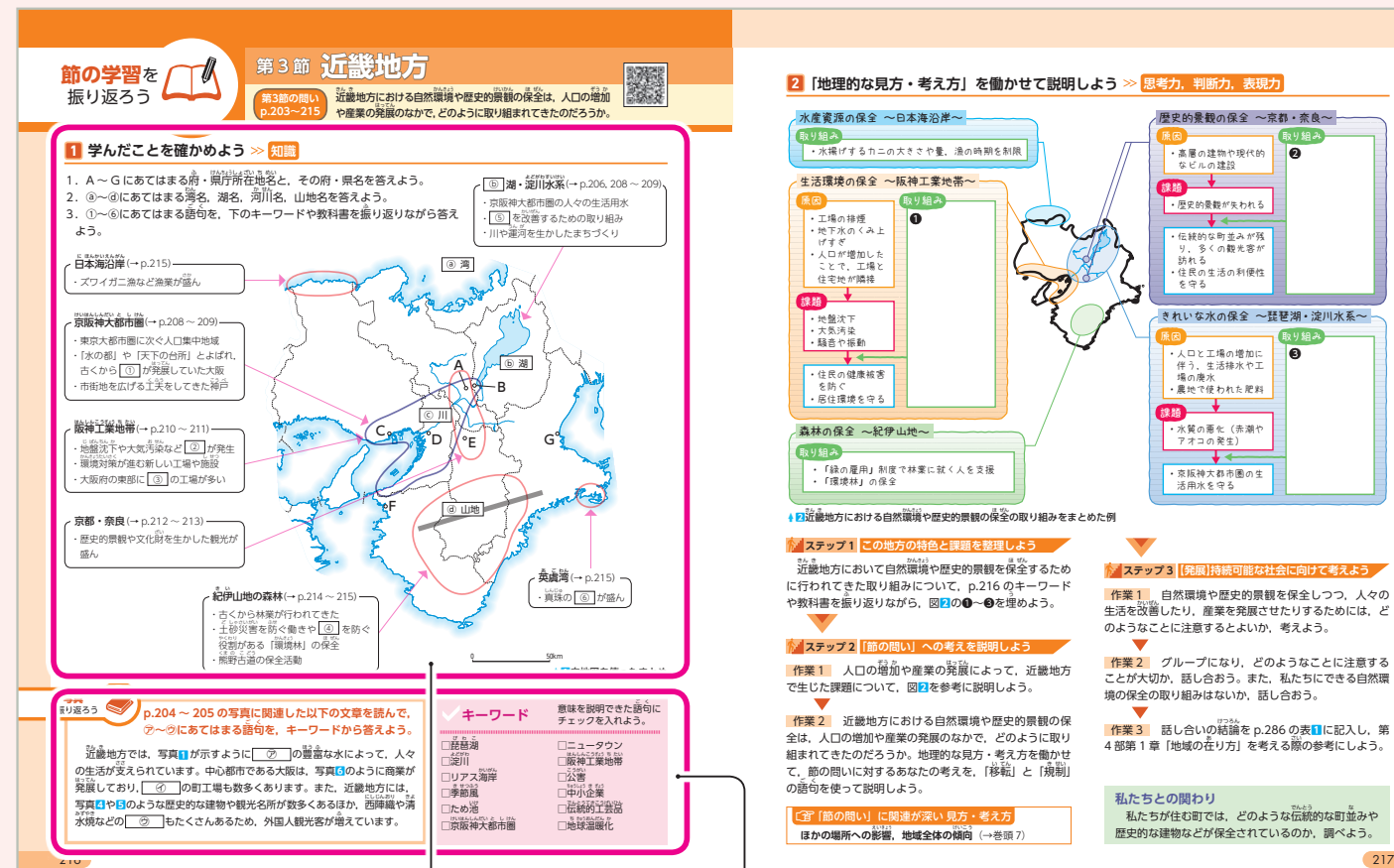
国土理解が
深まる



▲ p.214-215

小学校や他科目との関連を提示しています。既習事項の確認やカリキュラム・マネジメントなどに役立ちます。

紀伊半島の林業を、現状→課題→課題への対策の順に記述しました。地域の産業における、現状と課題への対策について記述しています。**地域的特色の理解に役立つだけでなく、持続可能な産業の在り方について考える際の参考にもなります。**



▲ p.216-217

学習した知識を白地図上でまとめることで、
確認できます。

「写真で眺める近畿地方」や、本文の太字を振り返る課題を通して、近畿地方で学習した知識を確認できます。

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は
本資料p.33-34に掲載

地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

世界と日本の諸地域学習の「序説」

文章だけではわかりにくい、地域的特色と地域の課題の関係について、写真やイラストを用いてわかりやすく説明しています。

第2章 世界の諸地域

章のねらい 世界の各州における地域的特色や、その特色と地球的課題との関係をとらえよう。

序説 学ぶにあたって

第2部第1章では、異なる自然環境に住む人々の生活の工夫や近年の生活の変化、世界のさまざまな宗教と生活との関わりなどに着目して学習してきました。

第2章では、p.3で学習した世界を六つの州に分ける方法を利用して、世界の諸地域を学びます。各州には、地域を追究する主題が設定しており、この主題に沿って、地域の特徴をとらえていきます(図6)。

各州の特徴をとらえる際は、州ごとの自然環境や歴史・文化、産業といった地域の特徴を学習します(図3)。そのなかで、経済格差や熱帯林の破壊など、地域にみられる課題にも目を向けてみましょう。これらの課題の中には、地球規模で共通している**地球的課題**もあります。そのため、これらの課題を解決するための方法を追究することが、私たちの住む町をよりよくするためのヒントにもなります。

地域の特徴



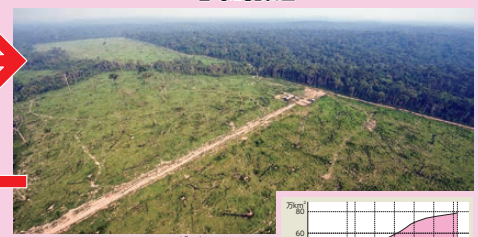
1 広大な牧場を移動する牛(ブラジル)

合計*	インド	ブラジル	その他
893万t	14.1%	12.1%	9.1%

*水牛などを含みます。

2 牛肉の輸出国(2016年)(FAOSTAT)

地球的課題

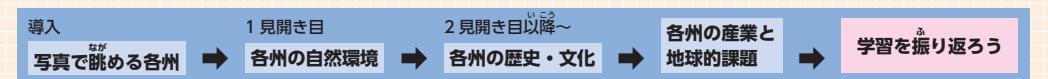


3 伐採された熱帯林(ブラジル、パラ州)

4 アマゾンの森林伐採面積の累計 (INPE 資料)

例えば、ブラジルは世界でも有数の牛肉の輸出国です。牛肉の輸出は、国の経済を支える大きな産業であり、ブラジルの産業における特色の一つになっています(→p.114)。しかしながら、牛を飼育する牧場は熱帯林を伐採してつくられるため、熱帯林の破壊や、地球温暖化という地球的課題を引き起こす原因にもなっています(→p.116)。

このように、地域の特徴は地球的課題にも結び付いており、**持続可能な社会**(巻頭 1~2, p.286)を実現するためには、これらの地球的課題の解決に取り組んでいくことが大切です。



第2部第2章における各州の学習の展開

州	地域を追究する主題	注目する地球的課題	州	地域を追究する主題	注目する地球的課題
アジア州	急速な経済成長	都市・居住問題	北アメリカ州	巨大な産業	生産と消費の問題
ヨーロッパ州	国どうしの結び付きの強まり	経済格差	南アメリカ州	農地や鉱山の開発	熱帯林の破壊
アフリカ州	特定の産物に頼る経済	食料問題	オセアニア州	他地域との関係	多文化の共生

各州における地域を追究する主題と、注目する地球的課題 地域を追究する主題は、各州を貫く「節の問い」にもなっています。

p.47

各州における地域を追究する主題と、注目する地球的課題について一覧で示し、各州でどのような地球的課題を扱っているかが一目でわかるようになっています。

世界と日本の諸地域学習の冒頭には「序説」を設置し、地域的特色を追究する際の視点(主題)と地球的課題・地域の課題の関係を端的に示しています。

地域にみられる課題には、**現在進行している事例**だけでなく、**課題を克服した事例**も含めています。これらの事例を参考にすることで、より具体的に地域の持続可能な発展について考えることができます。

第3章 日本の諸地域

章のねらい 日本の各地方における地域的特色や、その特色と地域にみられる課題との関係をとらえよう。

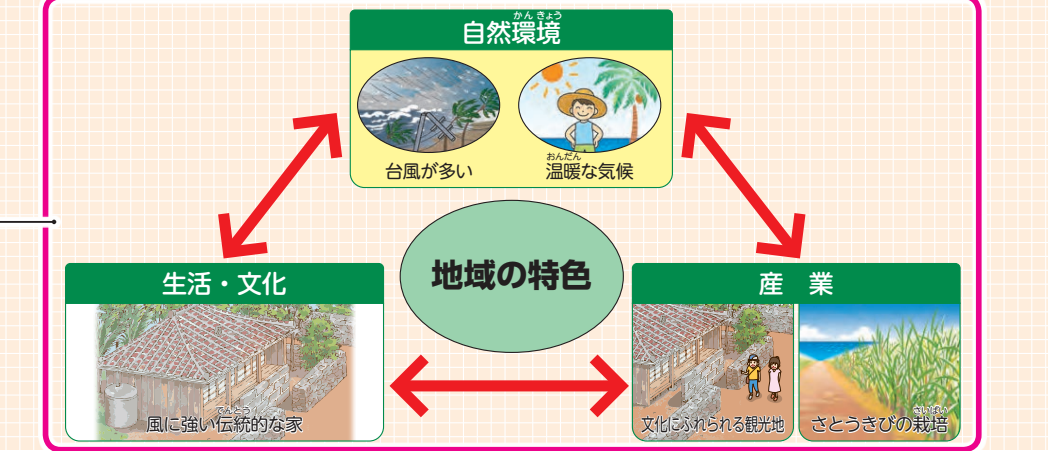
序説 学ぶにあたって

第3部第2章では、日本全体の特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信などの視点から学習してきました。しかし、その特色は地方によって異なります。

第3章では、p.166で学習した日本を七つの地方に分ける方法を利用して、日本の諸地域を学びます。各地方には、地域を追究する際に注目する視点が設定されており(図2)、この視点に注目しながら、地域の特徴をとらえてい

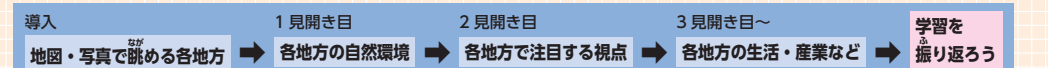
きます(図1)。

各地方の特色をとらえる過程においては、地域にみられる課題を人々がどのように克服してきたのか、また課題にどのように取り組もうとしているのか、ということにも目を向けてみましょう。この章の学習を通して、地域社会をよりよくするためには何が効果的なのかを考え、最終的には私たちの住む町で何をすればよいのかを考えましょう。



地域のさまざまな事象には関連があります。例えば南西諸島では、「温暖な気候」であるからこそ、「さとうきび」という特産品が生まれ、「台風が多い」という自然環

境の課題があるからこそ、「風に強い家」が生まれました。さらに、「風に強い伝統的な家」は、観光資源にもなっています。これらの事象すべてが、地域の特徴をつくり出しています。



第3部第3章における各地方の学習の展開

地方	注目する視点	地域にみられる課題	地方	注目する視点	地域にみられる課題
九州地方	自然環境	温暖な気候を生かした産業の発展 火山への対策	中部地方	産業	地域の特性を生かした新たな産業の発展
中国・四国地方	交通や通信	交通や通信を生かした産業の発展 過疎地域の活性化	関東地方	人口や都市・村落	人口の集中を生かした産業の発展 過密への対策
近畿地方	環境保全	環境に配慮した産業の発展 自然環境や歴史的景観の保全	東北地方	生活・文化	伝統文化を生かした産業の発展 伝統文化の継承
			北海道地方	自然環境	寒冷な気候を生かした産業の発展 厳しい寒さや雪への対策

各地方における地域を追究する際に注目する視点と、地域にみられる課題

p.170

日本の各地方における地域を追究する際に注目する視点と、地域にみられる課題について一覧で示し、各地方でどのような課題を扱っているかが一目でわかるようになっています。